

普及項目	その他
漁業種類等	—
対象魚類	—
対象海域	有明海、八代海、天草海

水産局情報共有による情報発信の推進

水産研究センター企画情報室・陣内 康成

【背景・目的・目標（指標）】

漁業現場等での水産業普及指導員（以下「普及員」という。）の活動情報は、水産関係施策を進めていく上で重要な情報である。本県水産業の振興施策が効果的に展開されるためには、普及員の活動情報が県関係機関に迅速かつ効率的に共有される必要がある。

このため、令和4年度（2022年度）に県庁ネットワークシステム内に水産局職員のみアクセス可能な情報共有の場「水産局情報共有」を設置し、普及員の活動情報等を迅速かつ効率的に情報共有できるようにした。

令和6年度（2024年度）も「水産局情報共有」により、普及情報の発信を行った。

【普及の内容・特徴】

普及員が自身の活動内容を「水産局情報共有」にアップし、その情報を水産局関係職員が迅速かつ効率的に受け取ることにより、本県水産業の振興施策に効果的に反映させることができる。

また、個々の普及員は活動情報が「水産局情報共有」で共有されることを認識することにより、普及活動の重要性を再認識する。

【成果・活用】

各広域本部の普及員が「水産局情報共有」を活用し、アサリの生息密度及び肥満度の調査結果、ノリ栄養塩情報、プランクトン調査結果、シジミ調査結果、スジアオノリの初摘採に係る現地の情報について、迅速に情報共有を行った。

また、普及員からの情報発信だけでなく、行政担当職員からも、赤潮対策に係る予算確保情報、有明海再生対策等について幅広い情報提供が行われた。

水産研究センター企画情報室は、「水産局情報共有」に新たな情報がアップされたことを水産局職員にメールで周知し、水産局内での円滑な情報共有を図った（通算24回）。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



R7.2.11 天日干しの様子



袋詰めの様子



製品 18g×47袋

摘採日	販売量（乾燥重量）
2/9～ 2/10	18g×47袋 846g
2/16	八代漁協へ600g 18g×14袋 252g
2/17	18g×17袋 306g
計	2,004g

令和7年2月9日から10日にかけて、八代漁協のアオノリ養殖場において、今漁期の初摘採となりました。年々漁獲量が減少し、昨漁期は漁獲に至りませんでした。今漁期は新たな稼げる養殖業推進事業で導入した囲網等の食害対策の取組みによって、846g（乾燥重量）と2年ぶりの製品化ができました。生産につながった網は、囲網の内側に張り込まれた網（葉長約25cm）のみで、囲網の外側の網（対照区：葉長3～5cm）には、摘採できるほどのアオノリは見られませんでした。

摘採されたアオノリは、18g入り袋を1,000円（税抜）で販売されました。

また、2月16日、17日に同食害対策の囲網の内側に張り込まれた網のみ摘採が行われており、上表のとおり販売されました。

図 水産普及活動情報の一例（アオノリの初摘採に係る現地情報）